



2005・4

NO. 1 1

LETTER

目 次

- ◆ 京都ライオンズクラブ50周年記念事業
 ＝「りょうがおかおひさまプロジェクト」報告（大西啓子）・・・ 2
- ◆ ソーラープロジェクト収支報告（陵ヶ岡保育園・春日野園）・・・ 2
- ◆ 京都ライオンズクラブ50周年記念事業
 ＝春日野園「はぐくみプロジェクト」報告（清水玄太）・・・ 3
- ◆ 「ソーラー発電は節電所」 （荒野一夫）・・・ 4
- ◆ 「京都環境賞」受賞・・・ 4
- ◆ 京都議定書が発効！私たちは・・・ （大西啓子）・・・ 5
- ◆ 自然エネルギーワーキンググループセミナー報告（清水玄太）・・・ 5
- ◆ 「一瞬の光に子どもが活かされていることを発見」
 写真家、中田氏にインタビュー （掃部和代）・・・ 6
- ◆ 太陽光発電とCO2削減 （林 敏秋）・・・ 7
- ◆ 2005年総会のお知らせ・・・ 7



特定非営利活動法人
きょうとグリーンファンド

りょうがおかおひさまプロジェクト報告

大西 啓子

◆「気力」「熱意」が多くの人々の協力を

山科区日ノ岡にある陵ヶ岡保育園に、おひさま発電所を設置することが決まってから一年余り。「日ノ岡」の地名が「山科区で一番初めに日が当たる場所」という意味で、その地にある保育園におひさま発電所を設置したい旨、中村園長からの申請の動機に書かれていたのを思い出しました。無事に設置・点灯式が終わり、まとめの報告パンフレットも出来上がった今、ほっとすると同時に、ピロティに掲げられたかわいい表示盤が太陽のパワーで光るのを、きっと子どもたちは毎日見てくれていると思うと、たまらなくうれしくなります。

今回も京都ライオンズクラブを始め、多くの人々の協力で「りょうがおかぼかぼかはつでんしょ」は出来ました。協力をお願いするということは実は大変なエネルギーが必要で、この場合のエネルギーは「気力」だったり「熱意」であったりするものです。お願いするときの熱意が相手に伝わり、通じた時に初めて「おひさま基金」に協力していただけるわけで、ハードルはかなり高いといえます。何しろ相手の方から「プロジェクト参加費＝お金」をいただくのですから。

きょうとグリーンファンドの仕組みの場合、この

協力は「節電・省エネ」に取り組んでいただくという協力でもあるので、地球温暖化や自然エネルギー利用、省エネ・節電、そして環境への配慮を呼びかけることとなります。陵ヶ岡保育園では、園長先生を始め保育士のみなさんが、さまざまな工夫を凝らして保護者や地域の方々に呼びかけをされました。エコ夏祭でお目見えした手作りの大きなパネル、リサイクルトレーと分別ボックス、リユースのカレー皿、my コップやmy お箸・my スプーン持参の呼びかけ、リユースびんのジュースなどなど、目を見張る工夫がいっぱい。ずいぶん大変だったでしょうね。

◆温暖化ストップのエネルギーを構築

いろんな工夫が陵ヶ岡保育園の立派な「財産」になり、温暖化ストップの力になるはずです。先輩のあけぼの保育園の存在も見逃せません。おひさま発電所ネットワークが着実に育っていることを本当に心強く思います。

温暖化の影響が予想を超えてさまざまに現れている今、ささやかでも地道な努力でひとりでも多くの人の意識を変えていくことの大切さを改めて感じています。陵ヶ岡保育園のみなさんの努力に敬意を表すると共に、ご協力いただいたみなさんに感謝し、ご報告といたします。

2004年度 陵ヶ岡おひさまプロジェクト 収支報告

設備設置が終了した陵ヶ岡おひさまプロジェクトの収支は下記のとおりです。
(2005年4月5日/千円以下四捨五入)

| 〔収 入〕 | |
|------------------------------|-----------|
| 陵ヶ岡保育園資金 | 310,000 |
| 京都ライオンズクラブ助成金 | 2,500,000 |
| 「おひさま基金」陵ヶ岡おひさまプロジェクト (133件) | 1,036,000 |
| きょうとグリーンファンド「おひさま基金」取崩し | 104,000 |
| NEDO補助金 | 2,808,000 |
| 収入合計 | 6,758,000 |

| 〔支 出〕 | |
|------------------------------|-----------|
| 事業費 合計 | 6,153,000 |
| 内訳 設備設置費 | 5,616,000 |
| セミナー関係費 | 143,000 |
| 印刷物制作費 | 394,000 |
| 事務費 合計 | 605,000 |
| 申請書作成/コーディネイト/通話費/交通/事務などの費用 | |
| 支出合計 | 6,758,000 |

2004年度春日野はくみナープロジェクト 収支報告

設備設置が終了した春日野はくみナープロジェクトの収支は下記のとおりです。
(2005年4月15日/千円以下四捨五入)

| 〔収 入〕 | |
|----------------------------|-----------|
| 春日野園資金 | 1,037,000 |
| 京都ライオンズクラブ助成金 | 2,500,000 |
| 「おひさま基金」はくみナープロジェクト (172件) | 1,105,000 |
| きょうとグリーンファンド「おひさま基金」取崩し | 100,000 |
| NEDO補助金 | 3,517,000 |
| 収入合計 | 8,259,000 |

| 〔支 出〕 | |
|------------------------------|-----------|
| 事業費 合計 | 7,597,000 |
| 内訳 設備設置費 | 7,035,000 |
| セミナー関係費 | 121,000 |
| 印刷物制作費 | 441,000 |
| 事務費 合計 | 682,000 |
| 申請書作成/コーディネイト/通話費/交通/事務などの費用 | |
| 支出合計 | 8,259,000 |

春日野園「はぐくみソーラープロジェクト」報告

清水 玄太（コーディネーター）

■春日野園の環境への取り組み

春日野園は「子どもたちを良い環境の中で育てたい」という思いから、自然に恵まれた環境を活かした保育を行っています。これまでも、保育園の横を流れる日野川に親水護岸のあるワンドをつくるなど憩いの場を提供したり、リサイクル容器の使用・廃油回収・クリーンキャンペーンなども行ったりと子どもたちや地域の人に環境問題に関心を持ってもらう取り組みを展開してこられました。

■おひさま発電所が出来るまで・・・

春日野園に設置することが決まってからは、参加をよびかけるチラシ、表示盤やお礼のシールのデザインなど保育園のみんなで考えました。

春日野園では、保育園、特に保育スタッフが中心になっておひさま発電所づくりに取り組まれました。きょうとグリーンファンドで開催した学習会で勉強された後、そこで学んだことをいかして、夏祭りや保育祭りでは自作自演の人形劇を披露して、子どもたちにわかりやすく伝えられました。子ども達は、初め【おひさま】といってもきょんととしていたのですが、演劇を見た後「おひさまは、野菜を大きくするで」「プールの水もあつためる」「おひさまってすごいね」と、たくさん声をあげるようになりました。

また、保育スタッフは、みんなに自分たちのできることを考えてもらいたいと、自然エネルギーの大切さや地球環境問題についてわかりやすく解説したパネルの展示を繰り返しおこないました。私たちも保育園を訪れる度にパネルの内容が更新されているのに気づき、その熱意をひしひしと感じました。



春日野園の取り組みは、「醍醐地域にコミュニティバスを走らせる市民の会」の協力で、コミュニティバスの車内にポスターを掲載して、地域の人へもおひさま発電所づくりへの参加を呼びかけました。

■点灯式当日は・・・

点灯式当日は、恒例となった太陽光パネルへの記名やお絵かきが行われた後、参加者の見守る中で設置が行われました。春日野園では、パネルが設置された屋上に上がることができるので、設置した後も間近でパネルを見ることができます。また、設置後もパネルの裏面を見ることができるので、卒園される園児やこれから入園される園児でもパネルに描かれた思いを見ることができます。

点灯の瞬間はあいにくの天気で発電するかどうかヒヤヒヤしていましたが、無事おひさまの電気で行灯に明かりが灯されました。子どもたちの歌やハーモニカの演奏も行われ、にぎやかな点灯式になりました。点灯式では、表示盤のお披露目式もあわせて行われ、表示盤がはじめて姿を現したときは、思わず参加者から拍手が起こるなど大変好評でした。

■今後に向けて・・・

おひさま発電所を設置した 2004 年度は、作品展の作品までおひさまをテーマにしたものが作られるなど、保育園はおひさまの一年になったそうです。また、子どもの中には地球紀行など見るテレビ番組が変わったり、「電気つかいすぎたらムダやし、もったいない。」などといったりするという変化が起きてきているそうです。そのような子どもの変化を見て、保護者の中には、車の使用を控えるなど、生活を見直そうという意識の変化もみられるそうです。

「これからも情報発信・交換の場として活躍していきたいと思います。」という園長先生の言葉からもわかるように、春日野園の取り組みは今後も続いていくことでしょう。

「ソーラー発電所は節電所」



荒野一夫 (きょうとグリーンファンド会員)

退職後は「終のすみか」で「晴耕雨読」の生活がしたいと50歳を前に土地探しを始め、琵琶湖を一望できる比良山麓に見つけることができました。退職を待ちきれず6年前に移り住み京都市内へ通勤しています。

白雲山荘と名付けられていた山荘は、古いこともあり土地代だけで購入出来たこともあって、かねてから関心のあったソーラー発電を設置しました。

私の生まれた故郷は石川県珠洲市です。「珠洲原発」を含めた原発を止めたいと、反対するだけでなく代替案としてのソフトエネルギーに関心をもちました。原発計画が撤回され少しホッとしています。

ソーラー発電を設置して一番変わった事は、発電量・使用量・売電量を目にするためもあって、絶えず節電を気にするようになったことです。「ソーラー発電所は節電所」なのです。以前に家屋評価事務の仕事でソーラー発電を設置された新築住宅を訪問した時、「これで夏はクーラーをガンガン使える」と話しておられましたが、多分実際にはクーラーを控えめに使っておられると想像します。

当地は山間・林地にあるのと積雪などで発電効率

が悪いのが残念です。

比良山麓は風の強い日が多いので風力発電にも興味があります。広い敷地に私のイメージで庭造りを始めていますが、川を流し池を作りたいと思っていて、その水を近くの小川から揚水するための電力を風力で賄えたら、と夢想しています。

白雲荘の冬の暖房の主力は石油や電力を使わない薪ストーブです。穏やかな温かさで炎は見ている飽きる事はありません。しかし薪作りが大変でいつまで出来るかな、と思っています。

きょうとグリーンファンドが設立されると案内を受け、少しでもソーラー発電が広まってほしいと考え会員にいただきました。国や電力会社がソーラー発電を増やしていけたら、原発を止める力となっていくことでしょう。最近住宅メーカーが販売促進の為にソーラー発電を設置して宣伝しているのは興味深いですね。

「白雲山荘太陽光発電所」の見学を歓迎します。庭に築きました石窯で焼くピザと、旨い手作りの「白雲山荘麦酒」を用意してお待ちしています。

きょうとグリーンファンドが 京都市より「京都環境賞」受賞 2005年3月28日

・・・選考理由・・・

「市民、各種団体から広く無理の無い範囲で、資金協力を求め、自然エネルギーである太陽光発電の設備を、地域の保育園などに設置し、地域住民に対する環境学習施設として活用している。併せて、市民のみなさまの節電により浮いた電気代やこの設備で発電した電気代の一部を寄付してもらい、その資金を次の太陽光発電の設置や自然エネルギーの普及啓発等に活用する仕組みも整えている。こうしたことからこの仕組みが、市民、地域の環境保全の取り組みの推進に大きく寄与することと認められる。」



※「おひさま基金」の仕組み自体が評価されたこと、そして何よりうれしい副賞がついておりました=事務局

(^o^)

京都議定書が発効！私たちは・・・

大西 啓子



議定書採択から7年、京都議定書がようやく発効しました。豊かさとしきかえに地球に背負わせてきた温暖化の重みは、増すばかり。「世界の人たちとの約束を果たすには、政府、企業、そして市民一人ひとりの自覚が求められている」として、このほど政府でも目標を達成するための計画案が決められました。しかしながら家庭部門では排出増が認められています。政府では家庭部門の排出削減については「お手上げ」なんです。考えてみれば、政府の言うとおりの暮らしができるはずありませんから、当たり前ではあります。その分、自分達が自らCO2削減に取り組まねばならない、私たち市民の「自覚」が大切ということでしょう。

きょうとグリーンファンドが進めてきたおひさまプロジェクトでは、一人ひとりの生活を見直すきっかけとなるよう「エネルギーの無駄遣い」を止める工夫や環境配慮をよびかけながら、自然エネルギー普及を広げてきました。「確実に把握できるCO2削

減量」はささやかではありますが、多くの人たちに温暖化の問題への関心を広げ、CO2削減に取り組むきっかけとなり続けています。保育園や幼稚園の先生から子どもたちへ、子どもたちから家庭へと少しずつ広がっている暮らし方の変化は、「確実に把握できるCO2削減量」としてはカウント出来ませんが、政府では「お手上げ」の家庭でのCO2削減につながるものといえます。

2005年度、NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）の補助金の枠組みは、議定書発行の影響か、促進の度合いを一層強めているように思います。1箇所の設置規模は10kWとなりましたので、太陽光パネルの価格が下がってきたとは言え設置者にとっては大きな負担となります。このような状況で、「おひさま基金」の役割はますます大きなものとなってきました。

きょうとグリーンファンドでは2005年度も2箇所のおひさま発電所設置に取り組みます。

自然エネルギーワーキンググループセミナー報告

清水 玄太



きょうとグリーンファンドは、気候ネットワークやワーカーズコープ・エコテックと一緒に京のアジェンダ21フォーラム自然エネルギーワーキンググループ（以下WG）の活動に参加しています。WGでは、京都で自然エネルギーを普及させるための市民と企業が連携して取り組む仕組みについて検討してきました。3月16日には、自然エネルギー普及と企業のCSR（企業の社会的貢献）との連携についてセミナーを開催しました。

セミナーでは、竹内久明税理士事務所、オムロン、京セラといった環境問題に取り組んでいる企業や事務所から、それぞれのCSRの現状について報告をしてもらいました。一方で、WGからは、市民が取り組む自然エネルギー普及の事例として、きょうとグ

リーンファンドのおひさま発電所について報告しました。

企業とWGからの報告をもとに、企業と市民の取り組みとの連携の可能性について議論を行いました。時間の制約もあり、議論が十分に行われたとはいえませんが、企業がNPOの活動について知らなかったり、NPOが企業の活動について知らなかったりと、お互いについての情報不足が課題として浮き上がりました。今後は交流会や研究会という形で、お互いの取り組みについて知るところから始め、連携のあり方について検討していく必要があるということを確認してセミナーは終了しました。





点灯式— 一瞬の光に「子ども」が活かされていることを発見

《文責》 掃部 和代

中田氏は東京で、「都市」をテーマに撮影活動をされていました。しかし自分にしか撮れないものを目指し、ふるさと京都で写真活動をするようになりました。若い頃から、自然教室での活動にも参加されていました。グリーンファンドとの出会いがあり、夢窓幼稚園、陵ヶ岡保育園、春日野園の点灯式の、写真撮影を担当されました。写真家からみた点灯式の感想などを聞いてみました。

Q；点灯式で、どんなことが印象深かったですか

中田； 夢窓幼稚園(04/1月)では、電球が光った瞬間「電気が点いた」という実感がもてました。そして園庭から屋根のパネルが見えています。日常的にパネル、太陽、表示盤の点灯が関連していることを認識できて楽しいでしょうね。陵ヶ岡保育園(04/12月)はクリスマスが近かったので、点灯するモニュメントがトナカイを型どってあり、雰囲気が盛り上がっていました。春日野園(05/1月)では子どもたちが絵を描いた模造紙で、灯籠のように点灯する電球が被われていました。点灯で雪の塔のような感じになり、絵が浮き出されて「これ、わたしが描いたよ」と、子どもは近親感をもっていました。

Q；撮影するときに気をつけていることや、ハプニングなどがありましたか

中田； 春日野園では曇りがちの天候でした。点灯した感動もつかの間、まもなく消えてしまいました。その時、園長先生が子ども達に、電気をつくしくみを話されました。そのことで、おひさま発電について現実感をもてる気がした。その後、表示盤の数字や絵の点灯をおひさまのパワーと、関連させて感じられたと思いましたね。他には、子ども達がパネルに絵を描くときは、どうしても下を向いているので、なんとかその表情と絵を写せるように工夫していました。

Q；点灯式で環境づくり面での感想があれば・・・

中田； 夢窓幼稚園では、点灯した後、先生たちがたて琴のような楽器を奏でられて、会場の雰囲気が幻想的なものになりましたね。春日野園では、点灯

式に予想以上の参加者があり、これまでの取り組みや日常活動に、地域との連携の広がりを感じました。

地域の人にとっては、点灯式でソーラーパネルを見ることができいい機会になっていますね。点灯式にはCO₂、温暖化の問題など、セミナーの内容も入れた話があるので、一般の人にとっても学習の機会になっていますね。

腹話術はよく工夫されて、大人も子どもも楽しんでいます。人形に声をかけたりして、子どもも、よく理解していることがわかります。

Q；点灯式に参加されたことによって、日ごろの活動にも何か影響があるでしょうか

中田； 撮影という仕事から、これまでは子どもにふれる機会はありませんでした。子どもの発想や会話がとても新鮮に感じますし、子ども達の笑い声中で仕事することの、心地よさを感じています。

写真は光にこだわる仕事です。点灯式といえば、電球一個の瞬間の光に集約しているものと思っていました。しかし、点灯の素材の工夫や、点灯を迎えるまでに子どもの気持ちを高める取り組みなど、一瞬の光に『子ども』が活かされていることを学びました。そして「光」の広がりを感じました。仕事面で、視線を変えるようにしています。

自分の生活でもリサイクル、節約、環境への関心も高まり、我が子や、家庭の過ごし方に目がいくようになってきましたね。



△◇▽～ 太陽光発電とCO₂削減 ～△◇▽

林 敏秋 (ワーカーズコープ エコテック)

2月16日にようやく京都議定書が発効しました。1990年比6%の温室効果ガスの削減を義務づけられている日本は、2003年レベルで8%も増加していることがわかり、合計14%以上も削減が必要になっています。CO₂削減が具体的な課題として私たちの前に迫ってきましたが、では太陽電池はどれくらいCO₂を削減してくれるのでしょうか。

電力1kWhを発電するのに火力発電だと733g-CO₂/kWhのCO₂を排出しています。太陽光発電だと73g-CO₂/kWhのCO₂を排出します。火力発電をすべて太陽光発電で代替させたとすると733-73=660g-CO₂/kWhのCO₂を削減したことになります。

住宅用の太陽光発電だと標準的な容量は約3kWといわれています。日本の一日当たりの平均日射量は約3.8時間です。太陽電池は、一日平均3.8時間100%動くわけではありません。機器のロスや空気の汚れなど様々なロスが出てきます。年間通してだいたい1000時間は動くとされています。そこで年間の発電量を計算すると、例えば3kWのシステムだと3kW×1000時間=3000kWhとなります。これに先ほどのCO₂削減量をかけてやると年間のCO₂削減量が出てきます。

$$3000\text{ kWh} \times 0.66\text{ kg-CO}_2/\text{ kWh} \\ = 1980\text{ kg-CO}_2$$

3kWのシステムを設置した場合年間約2トンのCO₂削減が出来ることになります。

では、私たちは年間どれぐらいのCO₂を排出しているのでしょうか。エネルギーから交通など全てを含んだもので日本に住んでいる者は一人当たり年間約9.4トン(2000年)排出しています。そんなに出しているの?と驚かれるかもしれませんが、それが現実です。「なーんだ、3kWの太陽電池をつけても一人分も削減できないのか」と落胆することはありません。私たちは「快適」という名の下に毎日、毎時間CO₂を排出し続けているのです。テレビやパソコンを使っている時も、ご飯を食べている時も、電車や車に乗っている時も。これに比較して太陽電池はCO₂を削減しているのです。この差は大きいと思います。

CO₂削減に目の覚めるような革新的方法があるとは思えません。日々の小さな努力の結果の上にか達成できないでしょう。政府や自治体の役割は重大ですが、市民の力も重要です。省エネを実践しながら、経済的に余力のある人は「年間2トンの削減」も検討してはどうでしょう。

2005年総会のお知らせ

2000年11月に出発した、きょうとグリーンファンドは、この11月に5周年を迎えます。多くの方々のお力添えで当初の予想を越える実績をあげているといえそうです。しかしながら、この5年間で地球温暖化も予想を越える速度で進み、その影響は多岐にわたっています。

京都議定書発効の記念すべき年に「京都環境賞」をいただいたことを機に、きょうとグリーンファンド次の5年へむけての展望を話し合いたいと考えています。是非、ご予約の中に入れておいてください。

- **場所** :京エコロジーセンター/2階 活動支援室
- **とき** :2005年5月14日(土) 午前11時~12時半

★ **報告交流会** 「保育園・幼稚園での環境学習の取り組み」
午後2時から 京エコロジーセンター/シアター

□きょうとグリーンファンドのメンバーになるには？

- 会員は、会費をおさめ会の運営を支援します。「NPO 法人社員」にあたります。
- 賛助会員は、ファンド(基金)への寄付のみの参加です。

I. まず、会員か賛助会員かをお選びください。

(入会申し込み書は事務局まで)

| | | |
|---------|-----------|---|
| 会員 | 10000 円/年 | 催し物のご案内、会報(年2回程度)をお送りします。 ※会員は「NPO 法人社員」として会の運営に参加することができます。 |
| 法人・団体会員 | 10000 円/年 | 催し物のご案内、会報(年2回程度)をお送りします。 |
| 賛助会員 | 6000 円/年 | 催し物のご案内、会報(年2回程度)をお送りします。 |

II. 次に、払込みの方法をお選びください。

| | |
|-------------------------|---|
| 郵便振替 (年払い) | ☆下の口座に直接振り込んでください。年1回 [郵便振替口座 00930-6-157817 きょうとグリーンファンド] |
| 郵便局からの 自動払い (年払い) | ◆ 会員…年1回 10000 円(入会月)が引き落とされます。 ◆ 法人・団体会員…年1回 10000 円(入会月)が引き落とされます ◆ 賛助会員…年1回 6000 円(入会月)が引き落とされます |
| 郵便局からの 自動払い (月払い) | ◆ 会員…年1回 4500 円(入会月)と、月々 500 円が引き落とされます。 ◆ 賛助会員…月々 500 円が引き落とされます。 |

★ろうきん口座からの自動払いの方法もあります。この場合手数料はかかりません。詳しくは事務局にお問い合わせください。

< ぐりふあん日誌 >

2004年

- 9/13 西舞鶴で説明会(京都府アドバイザリー事業)
- 9/21 夢窓幼稚園おひさまセミナー
- 9/24 事務局会議
- 9/25 城陽環境フェスティバル展示参加
- 9/27 自然幼稚園おひさまセミナー
- 10/1 第38回理事会
- 10/18 自然エネルギーWG、KES事業部にて説明
- 10/22 ワイズメンクラブ環境フォーラム(YMCA)に参加
- 10/25 陵ヶ岡保育園/園児対象太陽光パネル展示と点灯式について
打ち合わせ
- 10/30 春日野園保育まつりでおひさま発電所アピール
- 11/6 あけぼの保育園、見学と話—岡山温暖化防止推進委員の研修会
- 11/7 ワイズメンズクラブ(新風館)に参加
- 11/10 自然エネルギーWG 京都市担当者との意見交換
- 11/11 あけぼの保育園環境セミナー
- 11/18 KES審査員研修会で自然エネルギーへの支援について説明
- 11/19 事務局会議
- 11/22 第39回理事会
- 11/24 春日野園セミナー(保護者対象)
- 12/1 木津愛光プロジェクト打ち合わせ(京都府アドバイザリー事業)
- 12/4 陵ヶ岡保育園おひさま発電所点灯式
- 12/8 あけぼの保育園環境セミナー
- 12/10 季刊あじえんだ取材、京エコロジーセンターヒアリング調査
- 12/14 春日野園点灯式打ち合わせ
- 12/21 事務所移転

2005年

- 1/7 日立環境財団「環境NPO助成」申請
綾部市環境市民会議説明会(京都府アドバイザリー事業)
- 1/15 春日野園おひさま発電所点灯式
- 1/19 事務局会議
- 1/24 第40回理事会
- 2/17 三重県の温暖化防止推進委員研修
あけぼの見学、
事務局会議
- 2/23 事務局会議
- 3/9 京都府エコ京都21交流会
- 3/11 第41回理事会
- 3/14 04「近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度」
活動報告会参加
- 3/16 「はじめよう、環境コミュニケーション」企業との
意見交換と交流会
- 3/22 精華町で説明会(京都府アドバイザリー事業)
- 3/25 西舞鶴で説明会(京都府アドバイザリー事業)
- 3/28 「京都環境賞」受賞
- 3/29 大宮保育所訪問
- 3/30 陵ヶ岡保育所、春日野園収支報告打ち合わせ
- 4/7 精華町・光が丘幼稚園、大宮保育所訪問調査
- 4/8 自然幼稚園打ち合わせ

自然エネルギーWG参加(10/5, 10/18, 11/10, 12/7, 1/11, 2/25, 3/28)

特定非営利活動法人きょうとグリーンファンド

事務局 〒600-8104

京都市下京区五条通高倉西入る万寿寺町143

いづつビル6F(火～金 13:00～17:00)

TEL/FAX 075-352-9150

E-mail grifan@h7.dion.ne.jp

ホームページ <http://www.h3.dion.ne.jp/~kyoto-gf>

